

令和4年11月30日
みどりの丘保育所 池上・古澤

『じゃあ、どっちでもいいことにしたら、いいんじゃない?』

育っている姿(自立心・協同性・社会性・思考力・豊かな感性と表現)



育っている姿

発表会の取り組みを進めているある日、お母さん役をやりたいAちゃんが「お母さんの衣装、ドレスみたいにしたいんよなあ。」と保育者に伝えてきました。「どんな風にしたいん?」と尋ねると、嬉しそうな表情で色や模様まで考えていたので、他の役の子ども達も衣装を考えることにしました。

魔法使い役の子ども達は、最初、「うーん…」と悩んでいる様子が見られていましたが、Bくんが「こんなん、どう?」と言いながら、絵を描き始めました。それを見て、イメージがもてだしたようで、「いいね、いいね。」という言葉が聞かれ、次々にアイデアが出だしました。すると、「マントもついたらいいとおもうんじゃけど…」とBくんが言うと、Cちゃんは「わたし、マントつけたくない。」と言うので、「でもな…」「えー…」と思いつきに自分の考えを伝え合う姿が見られていますが、なかなか話が進まなくなってしまいました。すると、それを聞いていたDちゃんが「じゃあ、どっちでもいいことにしたらいいんじゃない? マントはつけたい人はつけたらいいし、つけたくなかったらつけんでもええがん。」と言うと、「そうじゃな。そうしようや。」と話がまとまり、自分達でアイデアをいっぱい盛り込んだ衣装のデザイン画ができていました。

発表会の取り組みを進めていく中で、同じ目的に向かってどのようにしたらよくなるかを友達と一緒に考えたり、思いを伝え合ったりしていました。自分の思いを通すだけでなく、友達の考えに耳を傾けたり、その考えを聞きながら新たな発想を伝えたりと、話し合いにより折り合いをつけようとする姿が見られた一場面でした。